

平成 20 年 4 月 8 日

## 第 17 回日本医療薬学会年会実施報告書

第 17 回日本医療薬学会年会

年会長 堀内 龍也

群馬大学 大学院医学系研究科 教授

医学部附属病院 薬剤部長

事業名： 第 17 回日本医療薬学会年会

主催者名： 日本医療薬学会

年会長：堀内 龍也（群馬大学大学院医学系研究科教授・附属病院薬剤部長）

会 頭：北田 光一（千葉大学教授 医学部附属病院薬剤部長）

後援： 日本病院薬剤師会、群馬県病院薬剤師会、日本薬剤師会、群馬県薬剤師会、  
前橋市薬剤師会、日本薬科機器協会、群馬県、前橋市、高崎市

実施日程： 平成 19 年 9 月 29 日（土）・30 日（日）

実施場所： 群馬県民会館

〒371-0017 群馬県前橋市日吉町 1-10-1

TEL: 027-232-1111 FAX: 027-232-1115

前橋商工会議所会館

〒371-0017 群馬県前橋市日吉町 1-8-1

TEL: 027-234-5111 FAX: 027-234-8031

前橋市総合福祉会館

〒371-0017 前橋市日吉町 2-17-10

TEL: 027-237-0101 FAX: 027-219-0337

前橋テルサ

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町 2-5-1

TEL: 027-231-3211 FAX: 027-231-3955

## 年会の趣旨

第17回日本医療薬学会年会を、平成19年9月29日（土）・30日（日）両日にわたり前橋市（群馬県民会館、前橋商工会議所会館、前橋市総合福祉会館、前橋テルサ）において開催することとなった。

日本医療薬学会は、平成2年日本病院薬剤師会を母体として誕生し、現在、医療現場に携わる臨床薬剤師ならびに医療薬学に関する教育研究者、また創薬に関わる薬学研究者の集まりで会員数も6,000名を越えている。激変する医療環境の中で薬学が果たす役割を明確にし、社会に対する医療薬学の貢献を広く示すべき時期の到来に合わせて、本年会のメインテーマを「社会の期待に応える医療薬学を」とした。そこでは、医療薬学領域でのより適正なアプローチの方法を模索すべく意見交換・討議の時間を十分に確保することとし、併せて参加者の薬剤師としてのスキルアップに直接つながる参加型企画を設定した。行政の視点から医療薬学を議論するシンポジウムを設定し、また、社会の要請を把握するとともに市民への啓蒙の意味も込めて、市民公開講座も企画した。さらに、本年会では抗がん薬注射剤調製業務に携わる薬剤師の安全に関する最新の情報についてユタ大学のヨルゲンソン先生に、遺伝子解析技術の医療への応用の最先端をバーゼル大学のマイヤー先生に紹介していただいたのに加え、日中韓の代表による国際シンポジウムを設定して医療薬学の役割について討論を行なった。今後の医療薬学の展開においては、国際的な視野で幅広く情報を収集するとともに、各国の相互理解に基づいた国際協調が必須になると解釈したからである。

本年会ではこの内容に関連して特別講演8題、シンポジウム19題、ワークショップ2題を企画し、特別講演3題は市民公開講座として一般市民に公開し、公開講座参加者には年会全企画への参加を認めることとした。さらに一般演題発表（口頭およびポスター）を設定し、学会前日の9月28日（金）には、同会場で日本病院薬剤師会病院薬局協議会が開催された。本年会が、薬剤業務はもとより、それに関わる教育・研究・行政を新たな視点で見つめなおす機会となれば幸いである。

## 会費等の設定

参加費	：	会員	8,000 円 (事前登録)	10,000 円 (当日登録)
		非会員	12,000 円 (事前登録)	15,000 円 (当日登録)
		学生	2,500 円 (事前登録)	3,000 円 (当日登録)
		海外		10,000 円 (当日登録)
懇親会費	：	一般	8,000 円 (事前登録)	10,000 円 (当日登録)
		学生	3,000 円 (事前登録)	4,000 円 (当日登録)
		海外		10,000 円 (当日登録)
前夜祭 (28 日) :			無料	
講演要旨集 :			2,000 円	
市民公開講座 :			無料	
ワークショップ (予約制) :			無料	

## 事業内容

1. メインテーマ	「社会の期待に応える医療薬学を」
2. 年会長講演	1 題
3. 日本医療薬学会奨励賞受賞講演	2 題
4. 特別講演	8 題 (うち 3 題は市民公開講座)
5. シンポジウム	19 題
6. ワークショップ	2 企画
7. 一般演題	1074 題 (口頭 161 題・ポスター913 題)
8. 共催セミナー	24 題 (モーニングセミナー5、ランチョンセミナー19)
9. 共催シンポジウム	1 企画
10. 共催ワークショップ	1 題

## 参加者数

会員	2529 名	(事前登録 2053 名、当日登録 476 名)
非会員	1018 名	(事前登録 710 名、当日登録 308 名)
学生	321 名	(事前登録 218 名、当日登録 103 名)
海外一般参加	58 名	
総数 (有料)	3926 名	
招待	125 名	(うち外国人 23 名)
市民公開講座	36 名	
スタッフ	403 名	
総数	4,490 名	

## 年会参加者（国内）の所属および会員・非会員の内訳

	事前登録参加者			当日登録参加者			総数		
	会員	非会員	学生	会員	非会員	学生	会員	非会員	学生
病院	1699	570	0	343	171	0	2042	741	0
薬局	62	51	0	21	21	0	83	72	0
大学	243	12	218	84	9	103	327	21	321
企業	28	51	0	14	94	0	42	145	0
その他	21	26	0	14	13	0	35	39	0
計	2053	710	218	476	308	103	2529	1018	321
合計	2981			887			3868		

## ワークショップ参加者内訳

ワークショップ名	会員	非会員	総数
医薬品情報の活用術	38	14	52
模擬患者協力型研修におけるフィードバック能力を磨く！	33	4	37
抗がん剤を安全に取り扱うために（第1回）	38	4	42
抗がん剤を安全に取り扱うために（第2回）	33	8	41
抗がん剤を安全に取り扱うために（第3回）	38	12	50
抗がん剤を安全に取り扱うために（第4回）	35	4	39
合計	215	46	261

## 事業成果

第17回日本医療薬学会年會を平成19年9月29日(土)30日(日)の両日、前橋市の群馬県民會館、前橋市総合福社會館、前橋商工會議所會館ならびに前橋テルサで開催したところ、その出席者は4500名近くに達した。一般演題は1000演題以上の申込があり、最終的に口頭発表161演題、ポスター発表913演題を採択した。また、9月28日(金)には群馬県民會館で日本病院薬剤師會主催の病院薬局協議會が開かれ、引き続き本年會の前夜祭を開催した。

本年會のメインテーマは「社會の期待に応える医療薬学を」と設定し、各国における医療薬学の果たすべき役割を討論する国際シンポジウム、薬剤師のスキルアップのための参加型ワークショップなどを企画した。

特別講演1では市立堺病院の阿南節子先生から「化学療法を安全に実施するために」と題して、抗がん薬による副作用とその対処法、取り扱い上の注意についてお話いただいた。また、特別講演5では名古屋大学医学部附属病院の杉浦伸一先生から「我が国における抗がん剤暴露の現状」をお話いただき、さらにユタ大学のヨルゲンソン先生に「危険薬剤の安全な取り扱い」と題して米国における対応を紹介していただいた。2004年のThe National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH)の警告を受けて、抗がん薬の取り扱い時の操作者の安全確保や環境汚染対策への関心が高まっており、いずれの講演も会場座席数を超える参加者で立ち見が出るほどであり、事務局としては出席者に対しご迷惑をかけた結果となった。

特別講演2では一般市民の観点から朝日新聞編集委員の田辺功先生に「日本の医療の問題点と将来」と題し、迫り来る少子高齢化と医療崩壊に備えて薬剤師が果たすべき役割についてお話いただき、特別講演3ではサリドマイド薬害被害者で財団法人いしずえの増山ゆかり先生に患者の立場から「サリドマイドが問う、現代医療のあり方」をご講演いただいた。さらに特別講演4では聖路加国際病院の細谷亮太先生に「病気の子とその家族を支える～小児がん治療の現場から」を医師の立場からお話しいただいた。特別講演2～4は市民公開講座として一般に開放し、今後の医療における薬剤師の果たすべき役割を一般市民にも理解していただくことができたものと考えられる。市民公開講座に登録された40名弱の市民の方にはネームカードを発行し、すべての年會企画にご参加いただけるように配慮したが、概ね好評であった。

特別講演6ではバーゼル大学のマイヤー先生に「薬理遺伝学の現状と未来」をご講演いただき、遺伝情報に基づいた薬物治療の個別化の最新の情報をご紹介いただき、特別講演7では群馬大学の土橋邦生先生に「吸入剤使用時の問題点とアドヒアランス向上対策」をお話いただき、吸入剤使用時の問題点について臨床現場からの提言をいただいた。さらに特別講演8では聖路加国際病院の福井次矢先生に「高い質の医療を提供するために」と題して、医療を評価し、改善・適正化する試みをご紹介いただいた。

シンポジウム企画では、共通のテーマで通日討議できるようプログラムを配置したことが本年

会の特徴である。同一会場で午前と午後に関連があるテーマのシンポジウムを開催し、参加者が腰を落ち着けて議論を継続できるよう配慮した。また、可能な限り共催セミナーも関連があるテーマを配置した。「高齢者へのファーマシューティカルケア」と「高齢者における薬物療法」、「癌薬物業務」と「緩和医療」、「コミュニケーションスキル教育」と「実務実習モデル・コアカリキュラム」、「薬剤業務の評価」と「産学官連携」、「リベラルアーツ」と「大学院教育」、「医療における薬剤師の役割」と「医療に貢献できる薬局薬剤師像」、「化学療法」と「感染制御」を組み合わせ、「精神科専門薬剤師」の会場では午後に精神科薬物療法の症例報告をまとめた。シンポジウムの大部分は他会場からやや離れた前橋テルサ会場で開催されたが、シンポジウム参加者の多くが会場間を移動することなく議論に集中できたものと考えている。シンポジウムのみを目的とする参加者の便宜を考慮して、前橋テルサ会場にも年会受付、クローク等を設置したが、当日参加登録者の約1割、99名がテルサ会場の年会受付を利用した。

本年会では「医薬品情報の活用術」および「模擬患者協力型研修におけるフィードバック技術を磨く！」という2つの参加型ワークショップを企画し、さらに企業と共催で「抗がん剤の安全な取り扱い〜がん専門薬剤師をめざす方へ」として抗がん剤注射剤の混合操作手技の実演を行なう共催ワークショップを開催した。いずれのワークショップも大変な人気で、事前登録の受付開始後10分ほどで満席となるワークショップもあったため、なるべく多くの施設の方に参加いただけるよう同一施設からの参加を制限させていただき、参加希望者全員のご希望に添うことができずご迷惑をおかけする結果となった。年会参加者は、講演や展示からの情報収集ばかりでなく、参加型企画による薬剤師職能のスキルアップも強く要望していることがわかったので、今後の年会運営に活かしていただきたいと思っている。

一般学術演題発表は1100演題以上の事前申込があったが、最終的に口頭発表161題、ポスター発表913題の発表が行なわれた。プログラム委員会で講演要旨の審査を行い、本年会での発表にふさわしくないと判断された演題を却下し、修正すれば採択可能と思われる内容については修正を求めた。修正を求めたものの大半は外科関連学会協議会の「症例報告を含む医学論文及び学会研究発表における患者プライバシー保護に関する指針」に反するものであった。日本医療薬学会では「医療薬学の研究発表における倫理的問題に関する指針」を定めており、先の指針も参考資料として挙げられている。倫理指針の非遵守は、医療薬学会のみならず科学全体に対する国民の信頼を失う結果につながりかねないので、会員への周知徹底が必要と考えられた。

最後に、今回の年会は「社会の期待に応える」ことをメインテーマとさせていただいた。医療は医療者のためのものではなく、医療を受ける患者、将来患者になるかもしれない人、患者を支える社会の人々のためのものである。社会に貢献し、社会から評価されるために、本年会が医療薬学のあるべき姿を見つめなおす機会となれば幸いである。

第 17 回日本医療薬学会年会 収支決算報告書

1. 収入

科 目	金 額	積 算 基 礎
年会参加費	35,758,000	事前登録費 会員 @8,000 x 2053 = 16,424,000 非会員 @12,000 x 710 = 8,520,000 学生 @2,500 x 218 = 545,000 当日登録費 会員 @10,000 x 476 = 4,760,000 非会員 @15,000 x 308 = 4,620,000 学生 @3,000 x 103 = 309,000 外国人 @10,000 x 58 = 580,000
講演要旨集販売	36,000	講演要旨集 @2,000 x 18 = 36,000
助成金	1,150,000	群馬県 100,000 前橋市 50,000 日本医療薬学会 500,000 日本病院薬剤師会 500,000
その他寄付	9,000,000	旭化成ファーマ他 70 社
企業展示	2,625,000	日本薬科機器協会
広告収入	1,207,500	講演要旨集広告 表 3 @210,000 x 1 = 210,000 1 面 @84,000 x 5 = 420,000 1 / 2 面 @52,500 x 6 = 315,000 1 / 4 面 @31,500 x 3 = 94,500 ミニプログラム 1 面 @42,000 x 4 = 168,000
協賛事業収入	16,201,500	セミナー @630,000 x 24 = 15,120,000 共催ワークショップ 1,050,000 音響機器展示 31,500
雑収入	3,791	受け取り利息 791 過剰入金 3,000
合 計	65,981,791	

支出

科 目	金 額	積 算 基 礎	
会場設営費	18,662,957	会場借用費 機材借用費 A V機器借用費 看板類設営費 その他	4,185,957 1,853,000 5,862,000 6,512,000 250,000
招請関係費 (海外)	1,235,416	渡航費、国内旅費、謝金	1,235,416
(国内)	6,490,242	国内講師旅費、謝金 招請者記念品 前夜祭 飲食費	4,900,902 660,000 829,340 100,000
人件費	8,481,705	アルバイト料 P C担当者派遣費 スタッフ食費	6,169,876 1,052,000 1,259,829
当日交通費	2,842,700	貸し切りバス タクシー	2,727,000 115,700
印刷費 通信費	18,015,600	要旨集印刷等 資料／映像等 通信費	14,577,000 3,323,250 115,350
会議費用	1,792,022	組織委員会 プログラム委員会 実行委員会 ワークショップ会議	1,193,681 110,784 301,000 186,557
消耗品費	4,490,122	事務機器・文房具等 事務用品その他消耗品	3,595,515 894,607
雑費その他	1,137,445	賞金、著作物使用料他	1,137,445
残務処理費	1,500,000	会計監査 会議費 印刷費および DVD 作成費 通信費 交通費 雑費その他 振込手数料 県病薬による立替	500,000 200,000 678,350 23,938 28,884 67,843 1,365 -380
剰余金	1,333,582	日本医療薬学会へ返還	1,333,582
合 計	65,981,791		

